

くすりのしおり

内服剤

2020年11月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：エベレンゾ錠 50mg

主成分：ロキサデュスタット (Roxadustat)

剤形：淡黄赤色の錠剤、直径約 8.1mm、厚さ約 3.7mm

シート記載：（表）エベレンゾ錠 50mg、腎性貧血治療薬、お薬をのむ日、50mg、社マーク、週 3 回のむお薬です、毎日のむお薬ではありません、（裏）Evrenzo、腎性貧血治療薬、エベレンゾ錠 50mg、週 3 回のむお薬です、毎日のむお薬ではありません、アステラス製薬、社マーク+605



この薬の作用と効果について

低酸素誘導因子（HIF）の分解に関わる HIF-プロリン水酸化酵素（HIF-PH）を阻害することで HIF 経路を活性化し、赤血球の産生を促進する造血因子（エリスロポエチン）を増加させて赤血球を増やし、腎臓の病気による貧血を改善します。

通常、腎性貧血の治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。脳梗塞、心筋梗塞、肺塞栓または既往歴がある。血圧が高い。
- ・妊娠、妊娠している可能性がある、または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・赤血球造血刺激因子製剤で未治療の場合：通常、成人は 1 回 1 錠（主成分として 50mg）を開始用量とし、週 3 回服用します。以後は、状態により適宜増減されますが、最高用量は 1 回 3.0mg/kg を超えません。
- ・赤血球造血刺激因子製剤から切り替える場合：通常、成人は主成分として 1 回 70mg または 100mg を開始用量とし、週 3 回服用します。以後は、状態により適宜増減されますが、最高用量は 1 回 3.0mg/kg を超えません。
- 本剤は 1 錠中に主成分として 50mg を含有します。いずれの場合も、必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・2～3 日に 1 回の間隔（例えば月・水・金、または火・木・土など）で週 3 回服用します。
- ・飲み忘れた場合は、次のあらかじめ定めた日の飲む時間帯と 24 時間以上間隔があく場合は、直ちに 1 回分を飲んでください。ただし、以後はあらかじめ定めた日に飲んでください。次のあらかじめ定めた日の飲む時間帯との間隔が 24 時間未満である場合は飲まずに、次のあらかじめ定めた日に飲んでください。絶対に同日に 2 回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・定期的にヘモグロビン濃度などを測定することがあります。
- ・十分な効果を得るためには鉄が必要です。鉄剤が処方された場合には、医師の指示どおりに服用してください。
- ・妊娠する可能性のある女性は、この薬を使用している間および使用終了後一定期間は適切な避妊を行うようにしてください。
- ・動物実験において乳汁中への移行が報告されています。この薬を使用している間および使用中止後 28 日までは、授乳を避けてください。
- ・突然認める片側の手足や顔の麻痺、しびれ、頭痛、言語障害、視力障害、意識障害、前胸部の圧迫感、狭心痛、冷汗、呼吸困難、咳、発熱などの症状があらわれた場合は、速やかに医療機関を受診してください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、嘔吐、下痢、便秘、高血圧などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・局所の痛みや腫れ、胸の痛み、息苦しい [血栓塞栓症]
- ・筋肉が発作的に収縮する状態 [痙攣発作]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局や医療機関に相談してください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。